

都市再生整備計画 事後評価シート
北秋田市中心市街地地区

平成30年 3月

秋田県 北秋田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	秋田県		市町村名	北秋田市		地区名	北秋田市中心市街地地区			面積	28 ha			
交付期間	平成26年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	2,082.5百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路:市道米代町線、市道栄町線 高質空間形成施設:屋外公衆トイレ・歩道屋根・歩行景観整備			事業名 地域生活基盤施設(地域防災施設):防災備蓄倉庫整備事業 高次都市施設:生涯学習交流施設整備事業								
		提案事業	地域創造支援事業:情報共有発信システム整備事業、交通交流施設整備事業(待合室)、交流施設活用促進事業(受付カウンター)、チャレンジショップ支援事業 事業活用調査:事業効果分析調査 まちづくり活動推進事業:中心市街地イベント											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし			削除/追加の理由			-					
		提案事業	なし			-			-					
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設:歩行景観整備			-			-					
	提案事業	なし			-			-						
交付期間の変更	当初変更	平成26年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期				
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値								
	指標1	施設来訪、利用者数(生涯学習施設、および無料休憩所、子育て支援施設の利用者数)	人/年	64,429	H24	76,000	H29	-	244,768 (H30.2末現在)	○	あり	●	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」が整備されたことにより、市内外の子育て世代がねまーの広場を利用し、交流広場をはじめとしたフリースペースでは様々な人が思いのまま過ごし、放課後には小学生から高校生までが勉強や遊びで集う複合的な要因により数値目標が大幅に達成したと考えられる。	平成30年4月
	指標2	地区内歩行者数	人/日	1,212	H23	1,260	H29	-	1,428	○	あり	●	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」へ徒歩で出向く人が増えたためと考えられる。	
指標3	空き店舗数(中心市街地活性化エリア内67店舗の内の空き店舗数)	店舗	15	H23	5	H29	-	14	△	あり	●	新規出店数を中心市街地情勢の変化による減が上回ったため、目標未達となったと考えられる。	平成31年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期				
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値								
	その他の数値指標1	【市道米代町線】安心して快適に通行できる。	%	-	-	-	-	83.0	○			特に冬期には、雪により通行がしづらくなるが、歩道屋根ができたことにより、安心して通行できるのが実感したためと思われる。		
	その他の数値指標2	【市道栄町線】屋内でバスやタクシーと待つことができ、快適である。	%	-	-	-	-	84.4	○			冬期に雪の降る寒中、バスやタクシーを待つことの大変さが、屋内で椅子に座って温かく待つていられることの快適さが実感されたためと思われる。		
その他の数値指標3	【北秋田市民ふれあいプラザ コムコム】総合的な満足度	%	-	-	-	-	81.9	○				市民が憩い、くつろぐことのできる新しい空間の存在が認知され、利用者が満足しているためと思われる。		
4)定性的な効果発現状況	事業の満足度について住民にアンケート調査を実施した。その結果、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」については、「トイレが非常にきれいで利用しやすい」という意見が5件以上あり、また、「ねまーの広場が子供を遊ばせるのによい」、「コムコムは明るく広々として居心地がとても良く大好きな場所です。」、「コムコム大好きです。」という意見も複数出され、中には、「世界中にコムコムがあればよいの」という意見もあった。また、市道米代町線の道路整備については、「歩道の屋根はありがたい」という意見が複数出され、いずれの整備も効果が確認できた。													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	施設利用状況、歩行者数調査		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 施設利用状況や歩行者数調査は、当該地区のにぎわい、交流、活気等に与える影響について今後も状況を確認する。						
	住民参加プロセス	企画運営会議		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 「(仮称)にぎわいづくり委員会」へと組織を改編し、今後は「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の運営だけでなく、中心市街地の商業地の活性化もあわせて取り組む。						
	持続的なまちづくり体制の構築	(仮称)にぎわいづくり委員会準備委員会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 「(仮称)にぎわいづくり委員会」を組織し、中心市街地地区のイベント等の実施について企画や運営を行っていく。高校生の参加も検討する。						

様式2-2 地区の概要

北秋田市中心市街地地区(秋田県北秋田市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値		評価値			
大目標：「憩い」「交流」「ふれあい」の創出による中心市街地の賑わい再生 目標①：人がつどい、にぎわい、活気とぬくもりある地域交流拠点の形成 目標②：市民の文化交流、地域コミュニティーを促進し賑わいを再生する。 目標③：歴史、観光資源およびイベントを活かし市民、観光客のまちなか歩きを促進する。	施設来訪、利用者数(生涯学習施設、および無料休憩所、子育て支援施設の利用者数)	単位：人/年	64,429	H24	76,000	H29	244,768 (H30.2末現在)	H29
	地区内歩行者数	単位：人/日	1,212	H23	1,260	H29	1,428	H29
	空き店舗数(中心市街地活性化エリア内67店舗の内の空き店舗数)	単位：店舗	15	H23	5	H29	14	H29
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路/米代町線(歩道改築整備) ・高質空間形成施設/歩道屋根改築整備/④ </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> </div> <div style="width: 25%;"> <p>□提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業/情報システム整備/① ・地域創造支援事業/交通交流施設整備/① ・地域創造支援事業/受付窓口(事務室)/① ・地域創造支援事業/チャレンジショップ支援 ・事業活用調査/アンケート調査 ・まちづくり活動推進事業/中心市街地エリア </div> </div>								
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p>■米代町線 歩道改築整備及び歩道屋根改築整備</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>■地域交流センター(北秋田市民ふれあいプラザ コムコム)</p> </div> <div style="width: 25%;"> <p>○関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流施設にぎわい事業(カフェコーナー)/① ・空き店舗等利活用事業/中心市街地 ・市民提案型まちづくり補助/北秋田市 ・市営住宅建設事業/北秋田市 </div> </div>								
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p>■米代町線 バスレーン・ロータリー整備</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習交流施設整備事業① ・防災備蓄倉庫整備事業② ・屋外トイレ整備事業③ ・歩行空間整備事業④ </div> <div style="width: 25%;"> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 基幹事業 □ 提案事業 ○ 関連事業 — 中心市街地活性化エリア </div> </div>								
まちの課題の変化	<p>◇地域交流拠点施設の整備： 「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」が整備されたことにより、子どもからお年寄りまで多くの市民が学習・文化活動や休憩場所として利用しているほか、バスを待っている間のつろぎの場所にもなっている。まだオープンしてから2年に満たないため、目新しことで多くの利用者を集めている所がある。今後もにぎわいの拠点として、現在の来館者数を維持しながら、中心市街地への波及効果のあるソフト的な対策が求められる。</p> <p>◇市民の文化交流と地域コミュニティ活動の促進： 米代町線の歩道の改良や米町線(バスレーン・ロータリー整備)の整備により、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」が結節点の役割を果たし、あらゆる年代の人々が集う場所ができたが、館内での集客に留まり、人の集いが地域コミュニティ活動まではおよんでいない。</p> <p>◇防災拠点施設の整備： 防災備蓄倉庫が整備され、中心市街地エリアに必要なものが確保され、災害時の不安が解消された。</p>							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>【空き店舗の削減】 中心市街地での買物や散策などのまちなか歩きが楽しめるように、店舗の新規出店を引き続き促すため、中心市街地イベントの継続実施や空き店舗に対する家賃補助及び新規出店者に対する支援等を行い、空き店舗削減に努める。</p>							

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道米代町線	90.3	L=402m 歩行空間整備事業	41.1	L=285m 歩行空間整備事業	事業内容の見直しに伴い、路線延長を短くした	事業内容の軽微な変更のため、影響なし	●	
	市道栄町線	116.0	L=80m バスレーン・バスロータリー整備	11.6	L=80m バスレーン・バスロータリー整備	-	-	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	防災備蓄倉庫整備事業	4.0	A=22㎡	11.7	A=22㎡	事業内容の見直しに伴い、事業費を増額した	事業内容の軽微な変更のため、影響なし	●	
高質空間形成施設	屋外公衆トイレ・歩道屋根・歩行景観整備	986.0	L=435m	371.2	L=435m	施行箇所の見直しに伴い、事業費を減額した	事業内容の軽微な変更のため、影響なし	●	
高次都市施設	生涯学習交流施設整備事業	1856.0	A=6,305㎡	1569.5	A=6,305㎡	事業内容の見直しに伴い、事業費を減額した	事業内容の軽微な変更のため、影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業						記載なし			
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	情報共有発着信システム整備事業	3.0	中心市街地に案内 端末設置	3.0	中心市街地に案内 端末設置	なし	-	●	
	交通交流施設整備事業(待合室)	70.0	A=68㎡	59.3	A=68㎡	事業内容の見直しに伴い、事業費を減 額した	事業内容の軽微な変更のため、影響なし	●	
	交流施設利用促進事業(受付カウ ンター)	9.0	A=9㎡	7.1	A=9㎡	事業内容の見直しに伴い、事業費を減 額した	事業内容の軽微な変更のため、影響なし	●	
	チャレンジショップ支援事業	3.0	新規出店支援	3.0	新規出店支援	なし	-		●
事業活用調査	事後評価調査	2.0	事後評価調査	2.0	事後評価調査	なし	-		●
まちづくり 活動推進事業	中心市街地イベント支援	3.0	中心市街地イベント	3.0	中心市街地イベント	なし	-	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
交流施設にぎわい事業(カフェコーナー)		高次都市施設内(単独分)	90	83	平成26年度～平成27年度	-	事業完了	
空き店舗等利活用事業		中心市街地	-	-	平成11年度～	-	継続中	
市民提案型まちづくり補助		北秋田市	-	-	平成23年度～	-	継続中	
市営住宅建設事業		北秋田市	792	792	平成24年度～平成27年度	-	事業完了	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	確定 見込み	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	施設来訪、利用者数(生涯学習施設、および無料休憩所、子育て支援施設の利用者数)	人/年	『従前値』と同様に、毎年市が実施している結果を評価値(確定値)とした。	-	-	64,429	H24	76,000	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定見込み	●	244,768 (H30.2末現在)	事後評価		
指標2	地区内歩行者数	人/日	『従前値』と同様に、毎年市が実施している結果を評価値(確定値)とした。	-	-	1,212	H23	1,260	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定見込み	●	1,428	事後評価		
指標3	空き店舗数(中心市街地活性化エリア内67店舗の内の空き店舗数)	店舗	『従前値』と同様に、空き店舗数を計測し評価値(確定値)とした。	-	-	15	H23	5	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		○
										事後評価	確定見込み	●	14	事後評価		
指標4										モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定見込み			事後評価		
指標5										モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」が整備されたことにより、学習・講座などの利用以外に、研修室での会議や交流広場での休憩・待ち合わせ等様々な利用がされ、その利用者も増加した。さらに、バス待合所でのバスを待つ人など、施設内には多くの人が集う場となった。	(値が上回っていれば記載不要)
指標2	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」へのアクセスや、市道米代町線の歩道改築により、地区内歩行者数が増加した。	(値が上回っていれば記載不要)
指標3	市道米代線歩道・歩道屋根整備及び生涯学習施設整備により新規出店を期待したが、中心市街地の情勢変化スピードが上回ったことにより目標未達となったものの、当該事業による新規出店もあり、改善傾向にあると認められる。	・住家一体の物件や法令(消防法等)に対応するため多額の費用を要する物件があることが判明した。 ・空き店舗家主が賃貸の意思があっても、老朽化等によりマッチングしない物件が多い。
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	【市道米代町線】安心して快適に通行できる。	%	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」や各地区公民館等に来館する人を対象にアンケート調査を実施し、道路整備の満足度について4段階評価で評価し、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を評価値(確定値)とした。				モニタリング			83.0	施設の受益者である住民に実施したアンケート調査の結果であり、施設の満足度の状況を確認できるため
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2	【市道栄町線】屋内でバスやタクシーと待つことができ、快適である。	%	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」や各地区公民館等に来館する人を対象にアンケート調査を実施し、道路整備の満足度について4段階評価で評価し、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を評価値(確定値)とした。				モニタリング			84.4	施設の受益者である住民に実施したアンケート調査の結果であり、施設の満足度の状況を確認できるため
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標3	【北秋田市民ふれあいプラザ コムコム】総合的な満足度	%	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」や各地区公民館等に来館する人を対象にアンケート調査を実施し、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の各室・エリアについて4段階評価で評価し、その合計値のうち「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を評価値(確定値)とした。				モニタリング			81.9	施設の受益者である住民に実施したアンケート調査の結果であり、施設の満足度の状況を確認できるため
							事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

事業の満足度について住民にアンケート調査を実施した。その結果、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」については、「トイレが非常にきれいで利用しやすい」という意見が5件以上あり、また、「ねまーの広場が子供を遊ばせるのによい」、「コムコムは明るく広々としていて居心地がとても良くて大好きな場所です。」、「コムコム大好きです。」という意見も複数出され、中には、「世界中にコムコムがあればよいのに」という意見もあった。また、市道米代町線の道路整備については、「歩道の屋根はありがたい」という意見が複数出され、いずれの整備も効果が確認できた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
施設来訪、利用者数(生涯学習施設、および無料休憩所、子育て支援施設の利用者数)	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった(理由)	【実施頻度】 年1回 【実施時期】 毎年度末 【実施結果】 モニタリングにより目標値を上回っていることを確認。	利用者数については、引き続き調査を実施し、利用者の要望に応えられる施設とするため、今後も状況を確認する。
地区内歩行者数	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった(理由)	【実施頻度】 年1回 【実施時期】 毎年度末 【実施結果】 モニタリングにより目標値を上回っていることを確認。	地区内歩行者数について、中心市街地のにぎわい再生に与える影響について今後も状況を確認する。

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
(仮称)北秋田市生涯学習交流施設建設に係る市民ワークショップ	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった(理由)	【実施頻度】 月1回程度 【実施時期】 平成25年度～ 【実施形式】 ワークショップ 【実施結果】 「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の各施設に反映	
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
(仮称)にぎわいづくり準備委員会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった(理由)	中心市街地の商業地の活性化の検討	(仮称)にぎわいづくり委員会	「(仮称)にぎわいづくり委員会」へと組織を改編し、今後は「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の運営だけでなく、中心市街地の商業地の活性化もあわせて取り組む。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	総務部総合政策課、健康福祉部福祉課、産業部商工観光課、建設部建設課、教育委員会生涯学習課	平成30年 2月20日 (第1回) 平成30年 3月16日 (第2回)	教育委員会生涯学習課 生涯学習係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標〇	
指標名		施設来訪、利用者数(生涯学習施設、および無料休憩所、子育て支援施設の利用者数)		地区内歩行者数		空き店舗数(中心市街地活性化エリア内67店舗の内の空き店舗数)			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路 市道米代町線	○	生涯学習交流施設として整備された「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の利用者数は、指標設定時には想定しえないほど、数値が大きく上回った。これは、施設の魅力が十分に発揮されているからこそ、多種多様な目的で利用がされている。また、この施設までのアクセス道となる市道米代町線の歩道の改良や市道栄町線のバスレーンの整備により、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」に気軽に訪れることができるようになり、快適性と回遊性が向上した結果、目標数値を達成することができた。	○	市道米代町線の歩道の改良や市道栄町線のバスレーンおよび北秋田市民ふれあいプラザ コムコム内のバス待合所の整備により、歩行者でも気軽に「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」に訪れることができるようになり、快適性と回遊性が向上した結果、目標数値を達成することができた。	△	新規出店者はあるものの、後継者不足による廃業や店舗老朽化による解体等があり、結果として目標数値を達成することができなかった。原因を分析すると家主が賃貸しない物件、賃貸に多額の費用を要する物件、老朽化によりマッチングしない物件が多数を占めることによるものと思われる。		
	道路 市道栄町線	○		○		-			
	地域生活基盤施設 防災備蓄倉庫整備事業	△		△		-			
	高質空間形成施設 屋外公衆トイレ・歩道屋根・歩行景観整備	○		○		△			
	高次都市施設 生涯学習交流施設整備事業	◎		◎		△			
提案事業	地域創造支援事業 情報共有発着信システム整備事業	○	生涯学習交流施設として整備された「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の利用者数は、指標設定時には想定しえないほど、数値が大きく上回った。これは、施設の魅力が十分に発揮されているからこそ、多種多様な目的で利用がされている。また、この施設までのアクセス道となる市道米代町線の歩道の改良や市道栄町線のバスレーンの整備により、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」に気軽に訪れることができるようになり、快適性と回遊性が向上した結果、目標数値を達成することができた。	○	市道米代町線の歩道の改良や市道栄町線のバスレーンの整備により、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」に気軽に訪れることができるようになり、快適性と回遊性が向上した結果、目標数値を達成することができた。	-			
	地域創造支援事業 交通交流施設整備事業(待合室)	○		○		-			
	地域創造支援事業 交流施設利活用促進事業(受付カウンター)	○		○		-			
	地域創造支援事業 チャレンジショップ支援事業	○		○		○			
	事業活用調査 事後評価調査	○		-		-			
関連事業	まちづくり活動推進事業 中心市街地イベント	○	生涯学習交流施設として整備された「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の利用者数は、指標設定時には想定しえないほど、数値が大きく上回った。これは、施設の魅力が十分に発揮されているからこそ、多種多様な目的で利用がされている。また、この施設までのアクセス道となる市道米代町線の歩道の改良や市道栄町線のバスレーンの整備により、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」に気軽に訪れることができるようになり、快適性と回遊性が向上した結果、目標数値を達成することができた。	○	市道米代町線の歩道の改良や市道栄町線のバスレーンの整備により、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」に気軽に訪れることができるようになり、快適性と回遊性が向上した結果、目標数値を達成することができた。	△			
	交流施設にぎわい事業(カフェコーナー)	○		△		△			
	空き店舗等利活用事業	○		△		△			
	市民提案型まちづくり補助	○		△		△			
	市営住宅建設事業	△		△		-			

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備された施設の維持・管理を図りつつ、さらに魅力的な施設となるよう運営面でも引き続き検討し、施設の充実を図っていく。	整備によって増加した歩行者の回遊性などを高め、にぎわいの再生に努める。	整備された環境を活用しながら、空き店舗の減少に引き続き取り組む。
-------	--	-------------------------------------	----------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標○			指標○			指標3			指標○		
指標名								空き店舗数(中心市街地活性化エリア内67店舗の内の空き店舗数)					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路 市道米代町線							△	空き店舗数の指標設定については、新規出店希望者と生涯学習交流施設内に設置されたチャレンジショップ支援事業により中心市街地への出店を促すことで比較的達成しやすい指標と捉えていたが、新規出店に対する空き店舗側の状況により難しいことが判明し、指標に達することができなかった。 北秋田市商工会を中心とする創業支援により新規出店を計画・希望する者もいるため、今後も適切な対策により空き店舗の解消に努め、中心市街地の再生を図って行く。	Ⅲ			
	道路 市道栄町線						-						
	地域生活基盤施設 防災備蓄倉庫整備事業						△						
	高質空間形成施設 屋外公衆トイレ・歩道屋根・歩行景観整備						△						
提案事業	地域創造支援事業 情報共有発着信システム整備事業						-						
	地域創造支援事業 交通交流施設整備事業(待合室)						-						
	地域創造支援事業 交流施設利活用促進事業(受付カウンター)						○						
	地域創造支援事業 チャレンジショップ支援事業						-						
	事業活用調査 事後評価調査						△						
関連事業	まちづくり活動推進事業 中心市街地イベント						△						
	交流施設にぎわい事業(カフェコーナー)						△						
	空き店舗等利活用事業						-						
	市民提案型まちづくり補助						-						
	市営住宅建設事業						-						

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			空き店舗に対する家賃補助や中心市街地活性化イベントなどに加え、北秋田市商工会とともに創業支援を強化し、空き店舗の解消に努めて行く。
------------------	--	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	総務部総合政策課、健康福祉部福祉課、産業部商工観光課、建設部建設課、教育委員会生涯学習課	平成30年 2月20日 (第1回) 平成30年 3月16日 (第2回)	教育委員会生涯学習課 生涯学習係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
にぎわい再生のために土地を有効活用する必要がある。	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の整備により、市民が憩い、くつろぐことのできる空間が生まれ、多くの利用者で賑わっている。	中心市街地の商店街では、空き店舗が増加している。	
・定住人口の減少と、市街地の外延化や病院移転に伴う交流人口の減少により、地域活力の低下と地域コミュニティの衰退が課題となっている。	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の整備により、交流人口が増加した。	交流人口が増加しても、地域コミュニティの維持にはつながらないため、対策が必要である。	
・中心市街地の快適性と回遊性の向上を図るため、市民が憩い、くつろぐことのできる空間を確保する必要がある。	歩行空間整備により歩行者の快適性が向上し、歩行者数も増加した。「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の整備により、市民が憩い、くつろぐことのできる空間が生まれ、多くの利用者で賑わっている。	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」の施設内だけで、活動が完結してしまい、中心市街地の回遊性にはつなげていない。	
・地域資源を活用してまちなか観光に取り組むことにより、交流人口の増加を図る必要がある。	「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」内に特産品加工室を整備した。	特産品加工室の利用が少ないため、まちの新特産品に対する提案が引き続き必要である。	
・災害に強いまちづくりのために、災害時の避難所設営に必要な備蓄体制の充実が課題となっている。	防災備蓄倉庫が整備されたことにより、災害時の避難所設営に必要な備蓄体制が充実した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	空き店舗の削減	空き店舗に対する家賃補助及び中心市街地イベントの継続実施や新規出店者に対する支援等を行い、空き店舗削減に努める	・空き店舗家賃補助 ・中心市街地イベント ・新規創業者支援

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画					
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	施設来訪、利用者数(生涯学習施設、および無料休憩所、子育て支援施設の利用者数)	人/年	64,429	H24	76,000	H29	確定 見込み	● ●	244,768 (H30.2末現在)	○	あり なし	● ●	→	平成30年4月		
指標2	地区内歩行者数	人/日	1,212	H23	1,260	H29	確定 見込み	● ●	1,428	○	あり なし	● ●	→			
指標3	空き店舗数(中心市街地活性化エリア内67店舗の内の空き店舗数)	店舗	15	H23	5	H29	確定 見込み	● ●	14	△	あり なし	● ●	→	平成31年4月	北秋田市商工会による新規出店及び商店街店舗状況の把握と市独自調査との照合により、確定値を特定する	
指標4							確定 見込み				あり なし	● ●	→			
指標5							確定 見込み				あり なし	● ●	→			
その他の数値指標1	【市道米代町線】安心して快適に通行できる。	%					確定 見込み	● ●	83.0				→			
その他の数値指標2	【市道栄町線】屋内でバスやタクシーと待つことができ、快適である。	%					確定 見込み	● ●	84.4				→			
その他の数値指標3	【北秋田市民ふれあいプラザ コムコム】総合的な満足度	%					確定 見込み	● ●	81.9				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・設定した3つの指標のうち、2つが目標値を達成することができ、そのうち1つは大幅に想定を上回った。	・毎年データが算出できる指標を設定するとモニタリングが容易になり、事業の効果を進捗中にも確認することができるのがよい。
	うまくいかなかった点	・毎年データが算出できる指標を用いているが、その値が今回整備している事業の完了前に大きく上回った。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・毎年データが算出できる指標を用いたため、事業中でも、モニタリングの指標として活用できた。	・指標の設定にあたっては、今回同様に、施設の整備の受益者である住民の意向調査やヒアリングを行うのがよい。 ・また、数値としての指標の判断を「満足」の分だけとするか、「満足」+「やや満足」の分とするかによるかの判断が必要である。
	うまくいかなかった点	・「空き店舗数(中心市街地活性化エリア内67店舗の内の空き店舗数)」の目標値が、下回った。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・採用した指標は市が毎年度調査を実施しているものであるため、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間途中で整備が完了した事業の効果を確認することができた。	・毎年、計測されている実績値を指標とすることは、PDCAサイクル運用上、非常に有効である。 ・モニタリングの実施は、事業の進捗状況を確認できて有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成30年 3月23日～ 平成30年 3月29日	平成30年 3月23日～ 平成30年 3月29日	電話、FAX、電子メール	教育委員会生涯学習課 生涯学習係
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	北秋田市民ふれあいプラザ内に掲示	平成30年 3月23日～ 平成30年 3月29日	平成30年 3月23日～ 平成30年 3月29日		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	濱田 純 国立大学法人秋田大学客員教授 秋田大学北秋田分校長	平成30年3月30日(1回)	教育委員会生涯学習課 生涯学習係	北秋田市都市再生整備 計画事業評価委員会設 置要綱	独自に設置
その他の委員	石郷岡 修一 北秋田市芸術文化協会事務局長 高坂 一雅 遊地祭プロジェクト代表 佐藤 篤子 まちなかマルシェ代表 佐藤 フサ 鷹巣地区婦人会長 佐藤 大 銀座通り商店会長 戸嶋 正志 企画運営会議委員(全体) 長岐 直介 公民館運営審議会長 村上 京子 K Planning代表 山野内 キミ子 鷹巣地区消費者の会長 大高 俊美 北秋田市商工会事務局長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたと確認された。
	成果の評価	・指標の評価は、概ね妥当であることが確認された。 ・「多くの自由来館者は、交流人口と言うことができ、事業の目的の一つである賑わいを創出していると判断できる。そのため、もう少し、その人たちの利用目的・理由まで分析した評価であるとよかった。また、「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」が出来たことにより、他の交流施設の利用者の増減の分析がされるとよかった。今後、まとめてほしい。」という意見が出された。
	実施過程の評価	・概ね評価は適切であると確認された。 ・「“(仮称)にぎわいづくり準備委員会”の設置は、必要だと思っていたので、早急に開催してほしい。」という意見が出された。
	効果発現要因の整理	・概ね整理された内容は適切であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案が市民に対して適性に公表されたことが確認された。 ・「高齢者の中には、市のHPを見る習慣のない人もいるので、広報での周知も必要である。」という意見が出された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当に進められたと了承された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」内の各施設の関係者(チャレンジブース1・2、ねまーる広場、市教育委員会等)と情報交換する場があるとよい。」「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」に人が集まっているという賑わいを、銀座通り商店街につなげる方策が必要である。そのためには、銀座通り商店街や駅、他の交流施設にも人が流れるような動線をつくり、回遊性が向上する方策が必要である。」「行政も関連する課の横のつながりを強し、産業、観光、地域の政策を一体で一緒に進めてもらいたい。」という意見が出された。
	フォローアップ	・フォローアップ計画を実施することを確認した。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると了承された。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
	記載なし	

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画(第1回変更)

きたあきたしちゅうしんしがいち
北秋田市中心市街地地区

あきた 秋田県 きたあきたし 北秋田市

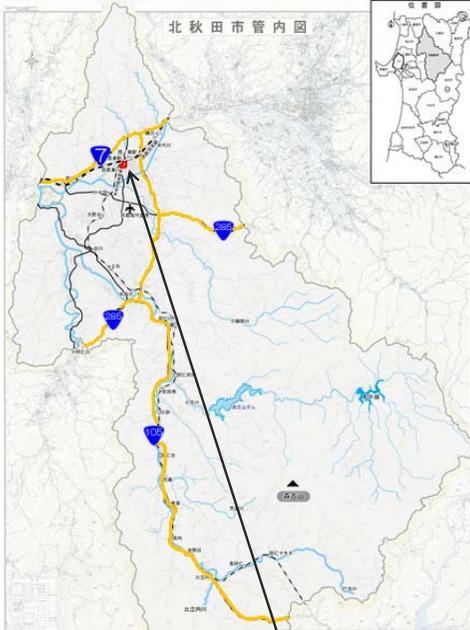
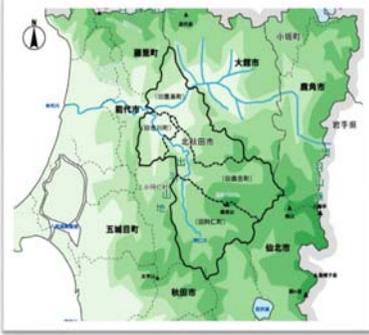
平成28年12月

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 <地域交流拠点施設の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院移転に伴い発生した空地を有効活用し、中心市街地の活性化を図る。 ・子どもからお年寄りまで多くの市民が集い、憩い、くつろぐとともに、市民の学習活動や文化活動等様々な活動を通して交流、ふれあいを含め、地域の新たな活力と賑わいを創造する拠点施設を整備することにより、中心市街地の活性化と地域社会の活力を創造する。 ・中心市街地では自由に使用できる駐車場がないため、駐車場整備することによって、まちなか歩きを促進し、買い物等をする人の快適性の向上ならびに駅前～商店街～地域交流拠点施設の回遊性の向上を図る。 ・地域交流拠点施設に子育て世代支援施設を併設することにより、子育て世代への支援機能の充実を図り、地域全体で子育てを支援する基盤を形成することにより、子育て世代のまちなか利用を促進する。 ・市民が様々な活動を通して交流の輪を広げるための空間、また、市民が自由にくつろぐことができる憩いの空間となる交流広場を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生涯学習施設(基幹事業／高次都市施設:地域交流センター) ②子育て世代支援施設(基幹事業／高次都市施設:子育てサークル室) ③交流広場(基幹事業／高次都市施設:緑地・広場) ④屋外トイレ(基幹事業／高質空間形成施設:バイリアフリー屋外トイレ)
<p>整備方針2 <市民の文化交流と地域コミュニティ活動の促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次都市施設建設とあわせ、歩行者に配慮した『歩いて暮らせる街づくり、児童生徒の安全な登・下校、人のにぎわいのある中心市街地の形成に適した歩行空間の確保』を目指し、歩道利用者の安全確保と良好な歩行空間を確保する。 ・中心市街地近郊には「国指定史跡伊勢堂遺跡」「胡桃館遺跡」などの史跡や羽州街道の史跡、歴史的建造物が点在している。中心市街地を起終点としたこれらを巡るまち歩き観光コースの構築。鷹巣駅前観光案内所や空き店舗を利用して整備された無料休憩所「げんきワールド」、中心市街地に隣接する文化会館などの歩行者立ち寄り場所となる既存施設との連携を強化し案内人や案内板・情報端末機器を整備することによって、歴史、観光資源を活かした地域住民と観光客の交流人口の拡大を図り、賑わいを創出する。 また、高次都市施設の中にバス・タクシー等の公共交通機関の待合所を整備することにより、まち歩き観光＋市内観光地へのアクセスとして”中心市街地が起終点”となり市内外の人々の交流のなかで、さらなる賑わいを創出する。 ・市民提案による、まちの新特産品の加工・研究開発し、チャレンジショップへのステップアップとして展開していく。 ・やる気のある市民や潜在的な開業希望者の発掘し、将来の商人を育て、空き店舗を減らし、商店街の繁栄・活性化の支援をすると共に、「仮出店」から「本出店」までの仕組みとルールづくりもあわせて行う。 ・中心市街地の商店街においては、空き店舗の活用や交流イベント等に取り組むことにより商業空間としての魅力を高めるとともに、地域の生活に根づいた商店街として再生を図ることにより、にぎわいの回復に努める。 ・中心市街地内の既存店舗、空き店舗、空地や基幹事業の交流施設を利用した三世交代イベント等の運営および支援をするにあたり、商店会だけでなく、老人クラブや子供会などの模擬店の出店や子供を対象としたミニイベントの開催。子供からお年寄りまで交流することにより、相互扶助の心を育み、ぬくもりあるまちづくりを促進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①米代町線(基幹事業／道路:歩道改築) ・歩行空間整備(基幹事業／高質空間形成施設:歩道屋根・歩行空間整備) ②情報共有発着信システム整備事業(提案事業／地域創造支援事業) ③交通交流施設整備事業(提案事業/地域創造支援事業) ④栄町線(基幹事業／道路:バスレーン・ロータリー) ④市民チャレンジブース(基幹事業／高次都市施設:まちおこしセンター) ・チャレンジショップ支援事業(提案事業／地域創造支援事業) 空き店舗等利活用事業(関連事業) ⑤まちづくり活動推進事業(提案事業/イベント支援等)
<p>整備方針3 <防災拠点施設の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくりのために、居住者が多い中心市街地において、災害時に被害・避難情報等の発着信施設および避難所となる施設の整備と合わせ、避難所設営に必要な備蓄体制を充実させるための防災施設を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①防災施設(基幹事業／地域生活基盤施設)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 事業終了後も引き続き、将来ビジョンの達成に向け中・長期の目標達成を目指し、まちづくりを推進する。なお、その推進にあたっては、市民や関係者を交えた第三者機関を組織し、官民協働のまちづくりを目指すものとする。 ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、定期的に関係各課と連絡会議等、庁内での調整・連携体制を確保し、事業成果についての評価や事業の進行管理を行う。また、都市再生整備計画書や計画概要等を市のホームページで公開し、市民からの意見募集を随時行うこととする。 	

都市再生整備計画の区域

北秋田市中心市街地地区(秋田県北秋田市)	面積 28 ha	区域 材木町、松葉町、住吉町、花園町、米代町、旭町、東横町の一部
----------------------	-------------	-------------------------------------



北秋田市中心市街地地区
(28ha)

